

# 令和5年度 森林づくり県民税 活用実績（県全体）

長野県林務部

## 1 令和5年度事業の執行状況について

令和5年度の森林づくり県民税（以下、「森林税」という。）活用事業の執行額は、当年度予算及び前年度繰越予算を合わせて 487,480千円 となった。（予算執行率78%）

（図表1 直近の年度別森林税執行状況）

（単位：千円）

年度	第3期					第4期
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額	752,478	1,057,836	1,150,343	1,033,143	695,173	<b>628,370</b>
執行額	557,590	829,505	1,038,928	1,000,571	615,260	<b>487,480</b>
執行残額	194,888	228,331	111,415	32,572	79,913	<b>137,390</b>
予算執行率	74%	78%	90%	97%	89%	<b>78%</b>

※予算額は、当初予算と前年度からの繰越分の合算額

## 2 令和5年度事業の主な取組

### （1）第4期からの新たな取組

第4期からは、「再造林の加速化」や「広く県民が親しめる里山の仕組みづくり」の取組等、ゼロカーボン実現に向けた森林資源の循環や、森林空間の活用による交流人口の増加に繋がる分野へ用途を拡大。こうした取組の 令和5年度実績は概ね目標を達成。

（図表2 主な事業の計画と実績）

事業名（指標）	R5目標	R5実績
人工造林・初期保育の嵩上げ（再造林面積）	260ha	247ha
開かれた里山の整備・利用推進（県民が広く親しめる里山の箇所数）	10箇所	16箇所
森林サービス産業総合対策（森林サービス産業に取り組む地域プロジェクトの数）	10プロジェクト	10プロジェクト

【人工造林・初期保育の嵩上げ】  
再造林の加速化【開かれた里山の整備・利用推進】  
遊歩道の整備・イベント準備【森林サービス産業総合対策】  
森林サービス産業の取組（森林セラピー）

### （2）第3期から継続した取組

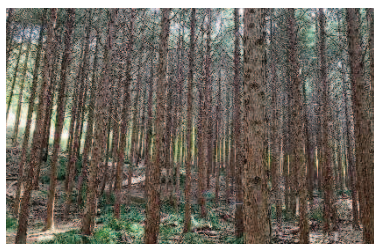
防災・減災のための里山の整備（間伐）を推進する「みんなで支える里山整備事業」では、地元調整等に不測の時間を要し事業着手が遅延したことから、実績が目標を下回った。令和6年度事業では、各地域の事業者への説明やヒアリングを行う等、事業の積極的な活用を促すとともに早期に間伐が実施されるよう努める。

また、広く県民が利用する施設の木造・木質化を支援する「あたりまえに木のある暮らし推進事業」では、資材価格高騰の影響により再設計を余儀なくされ、事業規模の縮小や令和6年度以降に見送る案件が複数生じたため、実績が目標を下回った。

一方、学校林の整備や森林環境教育の取組を支援する「学びと育ちの森づくり推進事業」では、目標以上の学校で取組が行われた。

(図表3 第3期からの継続事業等の計画と実績)

事業名(指標)	R5目標	R5実績
みんなで支える里山整備事業(防災・減災のための里山の間伐面積)	400ha	160ha
あたりまえに木のある暮らし推進事業(木造・木質化の箇所数)	11箇所	7箇所
学びと育ちの森づくり推進事業(森林環境教育・学校林整備)	10校	19校



防災・減災のための里山の間伐



広く県民が利用する施設の木質化

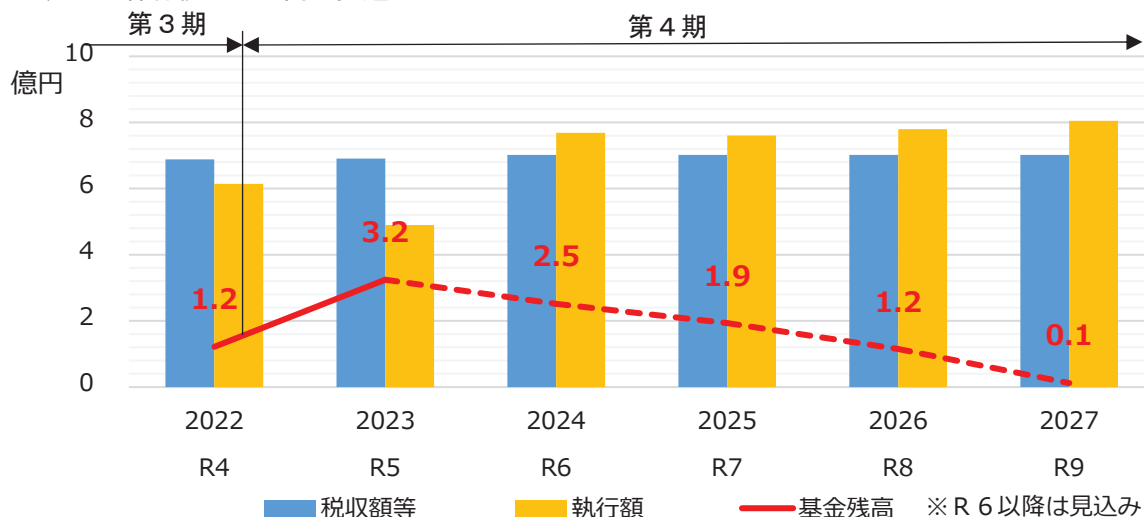


学校林での林業体験実習

### 3 森林税残高の推移

令和5年度の森林税残高は、第3期末(令和4年度末)の約1.2億円から約2億円増加し、約3.2億円となった。このうち、約7千万円は再造林面積の段階的増加に備えた計画的な基金積立分。

(図表4 森林税基金残高の見通し)



### 4 今後の基金活用の見込み

- 第4期後半に向けて段階的に面積が増加する再造林の加速化に活用 (R5年度260ha ⇒ R9年度900ha)
- 再造林の加速化に係る機械化による省力化の推進や獣害対策等の新たな課題の解決の取組に活用
- 防災・減災のための里山の整備(間伐)の取組に活用